

おわりに

本報告では、モエレ沼の水生植物と数種の水生植物の
 自生状況とともにモエレ沼の自然の改変状況を記したに
 過ぎないものであり、今後なお多数の植物が追加される
 ものと思われる。

モエレ沼の自然についての様々な分野の研究が多くの方
 方によってなされると、それを維持するための方策が見
 えてくるものと考えられる。特に水生植物群落を良好な
 状態に保つための生態学的な工法の研究と開発は緊急を
 要する課題と思われる。

文献

大井次三郎 (1953) 日本植物誌. 至文堂.
 大井次三郎 (1978) 改訂増補新版日本植物誌顕花編. 至
 文堂.
 大井次三郎・北川政夫 (1983) 新日本植物誌顕花編. 至
 文堂.
 原 松次 (1990) 札幌市北東部低地帯の植物. 北海道の
 自然と生物 (2), 21-28.

松尾 栄他 (1985) 当麻町野生植物図鑑. 当麻町, 91p.
 原 松次 (1992) 札幌の植物 (目録と分布表). 北海道
 大学図書刊行会, 116p.
 外山雅寛 (1991) 北海道におけるヒンジモの分布. 水草
 研究会会報 no. 43, 27-29.
 桜井善雄 (1988) 土木工事と水生植物群落—その現状と
 問題点. 水草研究会会報 no. 33・34, 7-9.
 北川芳男 (1984) 北海道の湖沼—その地学的特性—北
 海道の自然 (社団法人北海道自然保護協会) 第
 24号, 2-9.
 津田松苗 (1974) 陸水生生態学. 共立出版.
 合田勇太郎 (1993) 空知地方の植物—探究学習を加えて—.
 合田勇太郎 (1991) 空知中央の植物 (私刊).
 開拓使地理課 (1881) 石狩国札幌之図.
 陸地測量部 (1896) 札幌地形図.
 陸地測量部 (1909) 札幌地形図 (修正測量図).
 国土地理院 (1977) 札幌市北東部 2万5千分の1地形図.
 大滝末男 (1980) 日本水生植物図鑑. 北隆館.

○加藤辰己・太田英利共著『日本の絶滅危惧生物』(保
 育社、1993年7月発行、197p、2,000円)

種の絶滅問題に関する本の出版が相次いでいるが、平
 易であると同時にしっかりした視点をもってまとめられ
 たものとして本書を推薦したい。種の絶滅の主要な原因
 が生育環境の消滅であることから、本書では「生活域の
 自然」、「原生林」、「島嶼」、「限られた環境」という絶滅
 危惧種の集中する環境に焦点をあて、絶滅の背景と危機
 に瀕する生物たちを写真と解説で紹介している。水草は
 「生活域の自然」の中で代表的な種が解説されている。
 登場する種は限られているが、それぞれの環境でどのよ
 うな問題があるのかは十分に示されているだろう。

最後に、野生生物の保全の意義と今後の課題が、簡潔
 に論じられている。絶滅危惧問題の手軽な啓蒙書といえ
 る。

○鷲谷いづみ・森本信生共著『日本の帰化生物』(保育
 社、1993年12月、190p、2,000円)

上記の本と同じエコロジーガイドシリーズの第2弾で
 ある。水草が登場する部分はごく一部だが、日本の自然
 に関心のある全ての人にとって、たいへん勉強になる本
 なので紹介しておきたい。本書を読むと、まず私たちの
 身の周りにいかに多くの外来生物がいるかを知らされる。
 次に、その侵入と分布拡大、定着のプロセスを、さまざ
 まな事例を取り上げて解説し、最後に帰化生物の影響を
 生態系の攪乱から遺伝子汚染の問題まで幅広く論ずる構
 成になっている。本書の特色は、帰化生物の問題を「生
 物学的侵入」という深刻な地球環境問題のひとつとして
 位置づけ、現代生態学の知識と関連づけながら、新しい
 視点で論じていることであろう。河原にお花畑を作るこ
 とが、なぜ環境破壊になるか? 外来生物の放任が、い
 かに日本の生物相を破壊してゆくか? 私たちの身の回
 りで進行する隠れた「環境問題」に目を開かせてくれる
 好著である。

(角野康郎)